

2021年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
51103	日本国憲法 The Constitution of Japan	築山 欣央		共通	2	選択	2後期

科目の概要

本講義は、日本国憲法の基礎について講義をおこなう。ここでは、日本国憲法の重要な原理、基本的人権の考え方と具体的な内容、国家組織の基本構造の3つを柱として解説する。本講義の内容では、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーに資する点として、「自立した社会人として、一般的知識・技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を活かしつつ組織や社会の中で貢献できる」人材の育成につながる点を見ることができる。このため、受講生が日本国憲法の基礎的な知識を習得し、国の仕組みと人権のあり方への深い洞察を身につけることを目標とする。

学修内容	到達目標
① 日本国憲法の重要な原理を理解する。 ② 日本国憲法や身の回りの法について事例をまじえ理解する。 ③ 法学的な考え方の基本を身につける。	① 日本国憲法の重要な原理を説明できるようになる。 ② 日本国憲法を具体的に自身の生活と関連させてより深く理解し、自身の考えを示せるようになる。 ③ 法学的な基本用語が適切に使えるようになる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	率先して、日頃からルール（法）への理解を深めるよう、身の回りの情報を意識することができる。
	働きかけ力	
	実行力	身近な法（ルール）について、自身の日常生活で実践できる。
考え抜く力	課題発見力	身の回りの場面で、具体的にひそむ問題・課題を発見することができる。
	計画力	
	創造力	課題・問題のよりよい解決法が他にある場合、それに気づくことができる。
チームで働く力	発信力	与えられた課題やテーマにつき、自身の考え方を組み立て示すことができる。
	傾聴力	授業内容や他の学生とのやり取りに対し真摯に耳を傾け、その場や授業後の協働につなげることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

- ・テキスト（必ず入手）：初宿正典ほか『目で見る憲法』（有斐閣、第5版、2018年、1728円）
- ・授業中にレジュメや参考資料を配布する。

他科目との関連、資格との関連

資格との関連：保育士、幼稚園教諭二種

学修上の助言	受講生とのルール
日々のニュースの中にある、国家組織や人権にかかわる場面を徐々に意識できるよう、毎回、具体的な記事を配布する予定である。自ら新聞などのニュースに、積極的に目を向けるようにしてほしい。	他の受講生の学習を妨げることをしない。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	70	①	✓			・基本的に記述式の問題に取り組む作業の試験となる。 ・（総合評価でなく、筆記試験での水準として）授業で取り上げた用語や原則などの内容につき、適切に理解しテスト内での的確に説明できているものをA評価＝①、ほぼ説明できていると捉えられるものをB評価＝②、ある程度理解しているとみなされるものをC評価＝③とする。 ・テキスト、授業での配布プリント、自筆ノートを持ち込み可とする。
				②	✓			
				③	✓			
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
		レポート	20	①	✓			・それぞれの授業の後半時間で、具体的なニュース記事（資料）を配布し解説する。その時に適宜テーマを与えごく簡単なレポート作業を複数回（毎回ではない）する。 ・これは下記「社会人基礎力（学習態度）」と密接に関連する。 ・例えば、合計10回分の作業があったとして、全ての回において「説明と分析における論理性」につきの確であれば20点とし＝①、その程度が平均的な学生の水準と捉えられるかにより具体的な配点を実施する＝②。
				②	✓			
				③				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①				
				②				
				③				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			上記レポートの際、その取り組み姿勢において、以下の点が重要となる。 ・課題発見力：身の回りの場面で、具体的にひそむ問題・課題を発見することができる＝①。 ・創造力：課題・問題のよりよい解決法が他にある場合、それに気づくことができる＝②。 ・発信力：与えられた課題やテーマにつき、自身の考え方を組み立て示すことができる＝③。	
			②	✓				
			③	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
講義で説明した内容につき、試験とレポートと社会人基礎力（学修態度）それぞれを総合的にみて、90%相当の理解を確認できた場合S（秀）とみなす。90%相当とは、(1)ごく簡単な基本内容（用語や論点）の説明だけでなく、(2)それらについて背景をふくめある程度まとまった文章で解説ができ、各問題において優れた内容で示すことができた場合をいう。A（優）は、総合的にみて、上記の点を相当の程度文章としてまとめ解説ができた場合をいう。	試験において、各問題への解答を総合的に考慮し、(1)ごく簡単な基本内容の説明ができ、(2)基本原理について背景を含めある程度解説ができ、比較的良好とみなされた場合、B（良）に達したと捉える。上記(1)と(2)につき、試験の内容等を全体的に考慮し、平常の学習内容の取り組みをしていたものと確認できる場合、C（可）と判定する。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 授業の概要について確認し、日本国憲法のイメージをつかむ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	科目の概要、今後の授業の進め方、学習のポイント等を知る。	(予習) シラバスの内容を確認する。 (復習) 憲法とは何か、イメージをもって振り返る。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	憲法とは ルールとしての「憲法」の位置づけを知る。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	「法とは何？」から始めて、憲法の大まか仕組みを知る。	(予習) 教科書の目次で流れをつかむ。 (復習) 憲法の役割を整理し理解する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	憲法の観念・日本憲法の展開・日本国憲法の基本原理 「日本国憲法」の成り立ちの基礎を知る。 日本国憲法の基本原理を適切に整理する。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	近代憲法である日本国憲法の基本原理を適切に整理し、簡潔に説明できる。	(予習) 教科書3-7頁を確認する。 (復習) 日本国憲法の成り立ちを整理し理解する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	統治機構 統治機構の各機関の関連、そこでの憲法のルールとしての機能の仕方について学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	統治機構の各機関について、それぞれの関係を適切に理解し、簡潔に説明できる。	(予習) 教科書69、70、86、99頁を確認する。 (復習) 統治機構のイメージについて、授業の内容を振り返る。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	統治機構と国民との関係 国家組織と国民との関係について学ぶ。裁判所の役割の重要性について理解する。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	国家組織と国民との関係について理解し、説明できる。	(予習) 教科書69、70、86、99頁を確認する。 (復習) 裁判所による人権救済につき、授業の内容を振り返る。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	基本的人権総論 ・ 精神的自由権(1) 基本的人権についての基礎知識、思想良心の自由、信教の自由について学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	基本的人権の考え方の歴史、思想良心の自由、信教の自由について、授業の内容を整理し簡潔に説明できる。	(予習) 教科書5頁、14-65頁を確認する。 (復習) 授業の内容を整理し、振り返る。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	精神的自由権(2) 表現の自由、学問の自由について学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	表現の自由、学問の自由について、条文に沿って理解し、具体的問題の場面を理解し、解説できる。	(予習) 教科書34-43頁を確認する。 (復習) 教科書の「表現の自由」、「学問の自由」の内容・資料を参照しつつ、理解を深める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	経済的自由権と人身の自由 職業選択の自由、財産権、刑事手続に関する人身の自由について学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	職業選択の自由、財産権、人身の自由について、具体的な場面を挙げつつ説明できる。	(予習) 教科書44-50頁を確認する。 (復習) 教科書の「職業の自由」、「財産権」、「人身の自由」の内容・資料を参照しつつ、理解を深める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	社会権 憲法25条以下の社会権について学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	生存権、教育を受ける権利、労働基本権について適切に説明できる。	(予習) 教科書51-56頁を確認する。 (復習) 授業でなされた社会権の説明を的確に整理し、理解を深める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	参政権と人権の享有主体 「参政権」と「人権の共有主体」それぞれを学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	「参政権」と「人権の享有主体」それぞれの意義について、解説できる。	(予習) 教科書57-64頁を確認する。 (復習) 授業でなされた「参政権」と「人権の享有主体」の説明を整理し、理解する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	人権の限界 憲法13条の意味と、人権の限界について学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	人権の限界について、どのような場面にみられるか説明できる。	(予習) レジュメの該当部分を確認する。 (復習) 授業でなされた「人権の限界」の説明を整理し、理解する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	憲法の改正 各国憲法のあり方と憲法改正の手続について学ぶ	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	憲法の改正 各国憲法のあり方と憲法改正の手続について学ぶ	(予習) 教科書113頁を確認する。 (復習) 授業の内容をもとに、自身の言葉で説明できるよう、整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	平和主義 憲法9条に関する議論を学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	憲法9条での、「戦争」、「戦力」、「交戦権」の意味について説明できる。	(予習) 教科書8-10頁を確認する。 (復習) 授業でなされた憲法9条における「3つの放棄」の説明を的確に整理し、理解を深める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	象徴天皇制 象徴天皇制についてその概要を学ぶ。	講義 フィードバックは、質問等への対応として、授業の前半時に適宜行う。	象徴である天皇がどのように憲法上位置づけられているか、説明できる。	(予習) 教科書104-105頁を確認する。 (復習) 授業でなされた「天皇の権能」、「国事行為をどう考えるか」の説明を整理し、理解する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	まとめ	講義 まとめ用の資料・レジュメを介して、フィードバックの対応を行う。	これまでの全体を振り返り、学習内容を整理する。	(予習) これまでの授業内容を確認する。 (復習) この回の授業中に示された幾つかのポイントを重点的に理解し、自身の知識を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力